

6 音声によるアウトプットのあり方

Let's give it a try!	解答例
<p>1. Small Talk を行う上での指導上の工夫について考えなさい。</p>	<p>誰かになりきって話すような疑似的な対話ではなく、児童が興味・関心のある身近な話題について、既習表現を用いて自分自身の考えや気持ちを楽しみながら伝え合う活動となるようにする。1回目の時は、教師とALTがデモンストレーションを行ったり、教師が児童に問いかけながら対話する形で進め、対話の目的や場面・状況を把握させるとともに、使用する言語材料を想起させるようにする。対話の後には、言えなかった表現や使うことができた表現などを確認し、文脈に応じた語彙・表現の使用への気付きを促すようにする。</p> <p>既習表現の繰り返しの使用と併せて、「開始と終わりの挨拶」、「一言感想」、「繰り返し」など、対話を続けるための基本的な表現も指導するようにする。</p>
<p>2. 単元を通じて「話すこと」と「書くこと」の活動がどのように位置づけられているか、教材や指導案例をもとに調べてまとめましょう。</p>	<p>「話すこと」については、児童にとって身近で簡単なことについて、相手意識・目的意識をもって「自分が伝えたい内容」を发表或し、伝え合ったりする活動として位置付けられる。</p> <p>「書くこと」については、英語の音声に慣れ親しんだ段階で導入する活動として位置付けられる。機械的に繰り返し書かせるのではなく、「書きたい」という意欲が高まる場面設定において行われる。音声に十分に慣れ親しんだ簡単な語句や表現を、書かれたものを参考にしながら書き写す活動や、伝えたい自分の気持ちや考えを書く活動が単元を通して設定される。</p> <p>【例】『We Can! 2』 Unit 3 He is famous. She is great.*</p> <p>「話すこと」の活動例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Let's Talk ペアになり、日頃していることや趣味など、自分の特徴を話す。 ・ Who's this? Quiz グループでクイズを作成し、ある人物になりきって、第3者について伝え合う。 <p>「書くこと」の活動例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の好きなものや趣味など自分の特徴について作った文の中から1つ選び、ワークシートに書き写す。 ・ Who's this? Quiz の文を、例を参考に書く。